Nandong Smong

津波の記憶 “歌”で広める

インドネシア・アチェ州シムル島　生きている口承歌『スモン（津波）』

（47ニュース、朝日新聞、ZETAほか・編集は文責による）

2004年末
1907年のような津波が来た
昔話を聞いて良かった
島民が大勢助かった

シムル島だけに伝わる口承歌『**スモン（津波）**』

島には昔から、人生や恋愛、子供などをテーマにしたさまざまな叙事詩「ナンドン(Nandong)」がある。『スモン』はその伝統的なスタイルをまもって、1907年の大津波のあとに生まれた。

住むところがない
寝場所を探す
アチェで2004年
日本で2011年

『スモン』の大きな特徴は**「過去の伝承にとどまらず、現在進行形で変化し続けている」**という点だ。スマトラ島沖大津波のあとには、新たに**「地震のあとに海面が下がったら、すぐに高台に逃げろ」という具体的な歌詞が追加された。現在は東日本大震災に関する歌詞も加わっている。**

2004年12月26日、マグニチュード9・1のスマトラ沖大地震発生の約8分後から、10メートルを超える津波が島を襲った。だが、**津波警報も出ず、サイレンもない人口約8万の小さな島で、ほぼ全員が一目散に高台へ逃げた。**

シムル県庁のナスカ・ビンカマル次官によると、住宅約4千軒が流されたが、津波の犠牲者は1人。他に地震でがれきの下敷きになるなどして6人が亡くなった。**震源から数十キロの離島でこれほど素早く集団的な避難があった事実は、国際援助団体の関係者らを驚かせた。**

島の歴史家アズハルディン・アグルさん（61）は「1907年にスモンが来たときは、水が引いて海岸に打ち上げられた魚を拾いに行った多数の島民が亡くなったと言われている。以来、子守歌や昔話、叙事詩の形で教訓を残すことが、すべての家庭で徹底している」という。

スマトラ沖大地震の際、モリス・メサシラエさんと家族は、父親から聞かされていたスモンの歌詞を思い出し、高台へ逃れることができました。

ところが、島を出て州都バンダアチェで大学や高校に通っていたモリスさんの4人の子どもたちは、津波にのみ込まれてしまいました。

「島に比べ、防災意識の低い都市部で生活し、子どもたちは油断してしまったのではないか。」

モリスさんは、**島に伝わるスモンを広める必要性を痛感し、津波から1年がたった頃、今までのスモンに新たな歌詞を加えました。**

強い揺れが起き
海面が下がったら
すぐに高台に逃げなさい

2004年の地震では、津波の直前に海面が下がる状態が各地で目撃されました。この現象が津波の前兆だと周知し、注意を呼びかけて、迅速な避難を促すのが狙いです。

モリスさんは、これまで完成したスモンをCDやテープに記録して配布する取り組みを続けてきました。

インドネシアではこの10年、復興に力が注がれ、防災対策を行う余裕はありませんでした。

「このままでは、被災の記憶が失われてしまう。」

モリスさんと同じように、防災意識が薄れる現状を変えたいと考えた地元政府の招きで、モリスさんは首都ジャカルタでスモンを演奏し、亡くなった子供たちへの思いを込めて歌いました。

かつて地震があり、津波が来た
その名はスモン
古くからの言い伝え
忘れてはなりません

11年前、津波の直撃から島の人たちを守ったスモン。

モリスさんは、新たなスモンで記憶の風化を食い止め、同じ悲劇が2度と起きないことを願っています。

「シムル島だけでなく、インドネシア、さらに海外でも、津波の危険がある地域でスモンの歌詞が広まり、自分で自分の命を守る方法を知ってもらいたいです。そして、いつか東日本大震災の被災地を訪れ、スモンを演奏するとともに、互いの防災の知恵を共有したいです。」

スマトラ大地震の日に生まれ、スモン（津波）と名付けられた実在の子供を主人公にした紙芝居。防災教育に活用されている（画像：じゃかるた新聞）

東日本大震災から5年が経過しました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興と、これからの日々の平穏をお祈りいたします。

平成28年3月11日　西表島エコツーリズム協会

資料：47NEWS、毎日新聞デジタル、ヘッドライン2013.3.11、NHKニュースおはよう日本2015.12.26、じゃかるた新聞2015.1.15

we support↓
RQ 災害教育センター

MONTHLY
「東北に黒帯を送ろう！大作戦しんぶん」改め
復興支援かわらばん『すけさきた』しんぶん

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

MARCH 11 2016

文責：井上文子（西表島エコツーリズム協会　東北復興支援担当）